

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホームぽっかぽか花巻中央		
所在地	岩手県花巻市南万丁目1163番地3		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500056&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の「願いを叶える」ことを介護方針とし、日々の生活、会話の中で希望や願いを感じ取りその願いが叶えられるようサービス支援を行っています。その中で、地域の懐かしい風景を感じて頂くと共に良い気分転換となるよう外出の機会を増やしたり、季節ごとのイベントを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ① かかりつけ医等への通院送迎を事業所が無償で行なっている。しかも家族が行なう場合も事業所の担当者が日常の健康についてのデータ(メディカルチェック表、家族報告記録等)を持参同行し、医師の診断に役立ててもらっている。
- ② 当事業所内に持つ小規模多機能型居宅介護(通所、訪問、短期入所)とグループホームがその特性をお互いに活かして、相乗的に良い結果を生み出している。
- ③ 介護を支えるスタッフの平均年齢は若く、フットワーク良く、積極的に行動している。
- ④ 地域の行事等に利用者が積極的に参加するようにし、事業所内に閉じこもらないような支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念でもある「希望・願いを叶える」を目標にケアに当たっている。また、定期的に理念を振り返ることで目標に向かっての共有を図っている。	事業所内に特に「理念」として掲示はしていないが、月例ミーティング等で「理念」である家庭的雰囲気の中で「希望・願いを叶える」の内容を確認し合い、実践に向け、お互いに努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃は、散歩や買い物などの際に地域の方々と挨拶を交わしている。また、一斉清掃や地域の総会にはなるべく出向くようにしている。	地域の自治会に加入し、一斉清掃、総会等の行事には出来るだけ参加するようにしている。民謡研究会等のボランティア、近隣の保育園園児の七夕会への参加など回数は少ないが、交流が図られている。	災害時を考え、近隣の住民の方々の協力体制を強化するためにも、普段の付き合いが大切と思われるので、一層の工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や運営推進会議の際に内部でのサービスの特徴、認知症の基本的知識やケアについてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催しており、活動報告や実績報告、事故報告等を行い、地域の代表からはそれに関しての意見や、地域の行事等の情報を得ている。	運営推進会議は同系列の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催され、その内容は主に事業所側からの実績報告の後、委員の方から質問・意見が出されるケースが多い。自治会の代表なども加われば、更に地域の情報などが得られるのではかと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のご案内をして参加をいただいで意見交換をしている。運営上の疑問点はその都度ご担当者に確認させていただいている。	市の担当窓口を訪問しての連携は多くはないが、介護認定の変更、特養への異動相談等の時は訪問して指導を頂いている。また、地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーになっており、その都度指導をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	就労時、身体拘束禁止に関しての具体的な行為を話し周知させている。日中は施錠せず職員は連携しながら利用者様への声掛けや見守りにより行動を抑制することのないようケアに取り組んでいる。	身体拘束または類似行為はしないことを絶えず話し合いの中で確認し合っている。ただ強い言葉による行為抑制も拘束とみなし、管理者はその都度指導を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	就労時、虐待防止に関して学ぶ機会を持ち、定期的に職員に聞き取りを行い、見過ごされることがないように注意を払っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年の実践は行っていないが、今後研修等学ぶ機会を職員に提供しようと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にサービス内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会にて意見を聞き取りしている他、事業所内に苦情相談窓口を設けたり、また外部の苦情相談窓口についてもホーム内に掲示している。	3ヶ月に1回の家族会の折、交流の場を設定し、おやつ作りやもちつき大会、七夕飾りなどの行事をしながら事業所への要望等を聞くようになっている。利用開始時に苦情相談窓口について説明をしているが、これまで利用はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングや個人面談等で運営に関する意見を聴取し、幹部ミーティングにて職員の意見や提案等を出し、運営に反映させている。	若い職員でも意見を言い易い雰囲気を作っているため、色々な提案がなされる。例えば、手すりの付け替え、勤務のシフト表の変更、スプリンクラーの設置など、その提案を幹部ミーティングで話し、事業所の改善に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	悩みや意見、提案を聞き入れる場として個人面談を行っている。職能評価を実施し、個人評価・管理者評価・運営者評価を明らかにして、個々が次なる目標を設定できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オリエンテーションや内部研修を事業計画に明記し、また随時案内のある外部研修の情報を掲示し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花巻地域ケアサービス事業所連絡会に加入し地域の同業者との交流の機会を持っている。また随時施設見学の依頼を受け、当事業所サービスについて理解していただく機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や親戚からの申し込みが主で、その際に本人の意向を伺うことは困難だが、自宅や入院先にアセスメントへ出向き、本人の不安や願い、心身の状態などを把握する機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が相談に来た際、困っていることや不安なこと、求めていることなどをよく伺うよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考えうる問題であれば、当法人内のケアマネジャーにも同席や相談を求めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事等利用者様と共に行っている。また、生活歴を生かした取り組みを行い、お互いに学んだり支え合う関係が築けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には普段の生活を詳しくお伝えしたり、家族会で利用者様と家族様が交流出来る場を設けたりしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの面会、電話等を受け入れている。また、馴染みの場所や思い出のある場所へお連れするよう努めている。	事業所内に閉じこもらないよう支援をしている。事業所の所有する車で近くの観光地での花見や、紅葉狩り、事業所内でのクリスマス会、正月飾り、小正月のみずき団子作り等季節の行事を積極的に取り入れ、変化のある生活が出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士で外出したり、レクを行ったり出来るよう配慮している。また、職員が間に入ることで会話が出来るよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居された方について、必要に応じて家族や関係機関に状況を聞き、ホームの行事やレクに参加出来るよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から想像したり、本人、家族とお話しし希望等把握するよう努めている。また月例ミーティングでそれらを踏まえた介護方針の検討をしている。	多く支援を必要とする方、また自立度が高い方など様々であるが、自立度が高い方でも手抜きをしないように気配りをしている。会話の少ない方については、生活歴や少ない会話などから「思い」を察知し、介護方針を設定している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで生活歴やサービス利用の経過等を家族、本人から伺っている。家族の了承を得て、他事業所からもサービス利用時の状況を聞き、把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カーディックス記録用紙に一日の様子を記入し、一週間ごとに見ることが出来るよう努めている 他、朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで一ヶ月の様子を振り返り、介護方針に反映させている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上でサービス計画書を作成している。それを毎月家族へ送付し意見を伺っている。	職員からの意見、管理者の観察結果などから絶えず計画の見直しを図るよう、ケアマネと相談して、ケアプランを作成し、利用者に最適な介護が行われるように心がけている。毎月、家族の方が来訪された時、そのプランを示し、意向を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーディックスに日々の様子、気づきノートやミーティングノートに特に変わったことを記入し、職員は勤務に入る前に目を通し、情報の共有を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	彼岸やお盆、外食等家族で外出できるよう支援している。希望があれば家族様がホームに宿泊することも出来る。また、家族様の負担軽減のため、通院は原則事業所対応としている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか花巻中央

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には区長・民生委員にご案内状を出し、地域資源についての情報を頂いている。また、花巻文化会館で行われる行事等にも積極的に参加しており、事業所には保育園児をお招きしての行事等行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の特段の意向のない場合は、入居前からのかかりつけの病院を継続する。また、必要に応じて協力病院等に変更する場合、利用者様や家族様に理由等を十分に説明し了承を得た上で変更している。	かかりつけ医への通院は無償で事業所側で行なっている。家族が行なう場合でも職員が同行し、医師に情報を提供するようにしている。その折、介護の上で注意すべき点などを指導いただき日常の介護に活かすようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員が日常的に健康管理に努めている他、適宜かかりつけの病院の医師・看護師に相談し、適切な指示を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院先へ見舞ったり電話連絡にて、経過の把握を行っている。その都度担当医、看護師と情報交換している。また、退院許可のあった際には利用者様、家族様の意向も踏まえつつ極力早く退院出来るよう調整している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の処置やケアの意向を利用者様・家族様に伺いその意向を叶えられるよう支援している。また、その意向をかかりつけ機関にも伝え協力をお願いしている。日常的に医療行為が必要になった場合には治療に適した病院への入院、介護老人保健施設への入所、有料老人ホーム等での訪問看護サービスなど受けることを勧めている	ターミナルケアについては、医療行為が必要になった場合は、適正な医療機関を紹介したり、同系列の有料老人ホームを斡旋するように利用開始時に説明をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め、緊急時に備えている他、定期的に見直しを行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を実施し、災害時に対応出来るよう努めている。また、火災や地震時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め災害時に備えている。地域との協力体制を築くことが今後の課題である。	年2回の避難誘導訓練を実施することとする。うち1回は消防署職員の立会いのもと、結果について指導を頂いている。火災や地震時の対応マニュアルも出来ている。 災害時における地域の方々との協力体制を築いていけるように、地元自治会などと相談を重ね、体制の確立に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際、トイレやお風呂を利用する際等、日常生活ケアには利用者様のプライバシーに配慮している。個人情報の使用の際には利用者様や家族様の同意を得ており、またその結果を記録している。	入浴時の異性介助は、本人・家族の了解のもと実施されている。トイレへの誘導などについては羞恥心に配慮しながら、言葉遣いに気配りして行なわれている。プライバシーの保持についてはマニュアルを遵守することとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様から困っていることや不安なこと、求めていることなどを聞き取れるよう個人に合わせゆっくり会話が出来る時間を設け、また、押し付けにならず利用者が選択できるような問いかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外出の希望があれば出来る限りその日のうちにお連れするよう心掛けている。レクや外出には無理強いないようお誘いしている。健康状態を維持するために規則正しい生活を基本とはしているが、夜更かしや寝坊にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類購入の際には一緒に買い物したり、入居前からの行きつけの理、美容院へもお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等一緒に行い、会話も楽しみながら食事をしている他、正月にはおせち料理、クリスマスにはケーキ、等季節の食事を楽しんでいる。	危険を伴わない範囲で食事作り、配膳、盛り付け、後片付けなどやっていたいしている。季節の料理を出来るだけ取り入れるようにし、変化のある食事が楽しめるように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や栄養摂取量に配慮が必要な利用者については、食事やおやつ時適量を摂取して頂けるよう声掛けや見守り・介助をしている。また、各利用者様の状況に応じ硬さや大きさ等に配慮し食事は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、もしくは就寝前に、一人一人の状況に応じ口腔ケアを行っている。必要に応じ適宜歯科受診をし、義歯や口腔内衛生など口腔の状態を良好に保つよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の声掛けにてトイレ誘導したり、利用者様の力を活用して排泄できるよう手順の声掛けをし、出来る限りおむつへの移行のないよう支援している。	本人の自尊心を傷つけないように、言葉がけなどに配慮がされている。また、自立心を保っていけるよう、時間がかかるがズボンの上げ下げ等は、自分自身で行なって頂くように「待ちの時間」を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料やヨーグルト、食物繊維の多い食品等を積極的に献立に取り入れるよう努めている。必要に応じ水分摂取量、排便の有無などをチェックし記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めながらもお断りされる方、時間帯の希望のある方にはそれに添った形の支援となるようお応えしている。	2日に1回は入浴をして頂くように勧めている。午前の希望の方が多いが、時間は希望により選択出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者様には、日中活動的に過ごしていただけるよう促している。昼寝を希望される方には居室にてゆっくりと休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に個人別の処方薬の一覧表をファイルし設置している。服薬の確認、介助したスタッフはカードックスにサインを記入している。また、誤薬等ないようにミーティング等で定期的に注意を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事や畑仕事、食材買い出し等一緒に行うことで役割や楽しみを持って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常にイベントの情報収集に努め、可能な限りお誘いし外出している。また、自宅の様子を見に行きたいとの希望に家族様の了承を得てお連れしている。	食材の買出しの時は、声がけてたくさんの方が順に同行出来るようにしている。自分の買い物を楽しみにしている方もいる。暖かい季節には、隣接する野菜園の手入れ、収穫を楽しんで頂いている。また、近くの散歩等は日常的に行なわれている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理しているが、本人の希望、家族様の同意の元いづらか自分でお金を所持している方もいて、買い物の際には見守りし買い物を楽しめるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。また、手紙の返事や年賀状を書いたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は台所と接し、調理する音やご飯の炊ける匂いが生活感として、リビングには行事の写真やクリスマスツリー、水木団子を飾り季節感を取り入れている。不快な音もなくゆったりと過ごせるよう工夫をしている。	共同生活空間・廊下・居室とも、照明・室温等、快適に生活できるように配慮されている。廊下には行事への参加風景などが毎月更新で貼り出され、思い出を回想できるよう気配りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを2台置き、それぞれが好きな番組を見ながら過ごしたり、椅子やテーブルを設置することによりゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には、家族様に使い慣れた馴染みの調度品を持参してもらうように話し、家族様と本人様、職員と一緒に飾り付けをし居心地よく暮らせるように工夫している。	利用開始時には馴染みの私物の持込は自由と説明している。ダンス・鏡・テレビ・いす・家族の写真等様々な物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関にはスロープや手すりを設置し、ベッドには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。		